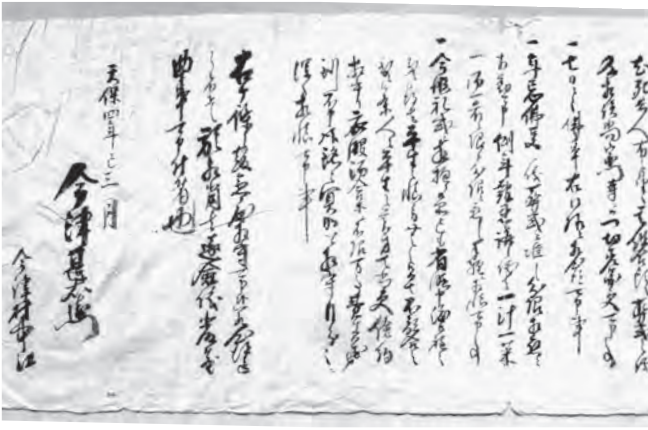


天保の飢饉と高島

天保の飢饉

初夏に茄子を食べた二宮金次郎と尊徳(1787〜1856)が、味の違いによって飢饉の訪れを予測したと伝わるのが、江戸時代に日本を襲った三大飢饉のひとつ「天保の飢饉」です。天保4年(1833)から同10年(1839)にかけて、東北地方を中心とした深刻な冷害で作物が育たない状態が慢性的に続き、この



金沢藩代官から今津村に出された俵約令

飢饉の影響で、全国で20万〜30万人の人人々が命を落としたとされています。

高島での影響

特に天保7年(1836)は凶作の年になり、それは高島も例外ではありませんでした。この危機を乗り越えるために、領主であった大溝藩や金沢藩、小浜藩などから俵約令が下され、人々の生活は日々の衣食住や冠婚葬祭、年中行事、休養、娯楽に至るまで厳しく制約されました。また市内の各村々では寄り合いを重ね、頼母子講(資金を融通し合う)



藁園の札場跡

互助組織)の休止、豪農や商人による施し、備蓄米の放出などの対策をとっていたことが分かっています。このほか年貢の減免やお救い米を求める記録、盗みを働いた人々による詫言など、当時の切迫した状況を伺い知る古文書が市内各地域に数多く残されています。

新旭町藁園に伝わる記録には、この年200年来の高水(洪水)になったとあり、「高札西まで」船が来たと書かれていることから、多くの人が往来する札場の近辺まで浸水していたことが分かります。

幕府の見分と近江天保一揆

一方で江戸幕府は、琵琶湖の湖岸や川沿いの土地を開発し、そこから得られる税を増やすことを目的に、近江国(近江)の見分(土地の調査を進めました。天保12年(1841)幕府勘定方・市野茂三郎が近江に派遣され、高島郡では知内川、百瀬川、鴨川、石田川、安曇川が見分の対象とされました。

しかし、このような動きに対して反発が起き、その翌年の同13年(1842)10月、甲賀・野洲・栗太の三郡で近江最大の一揆「近江天保一揆」が発生し、4万人ともいわれる農民が参加しました。天保の飢饉をきっかけとする出来事は、江戸時代の終わりが近づきつつありました。

関 中江藤樹・たかしまミュージアム (32) 0330

編集 雑感

12月から市の公式Instagramで「#高島の絶景2025」キャンペーンを実施しています。市内の風景写真を皆さんに投稿していただく内容です。高島市内はとて広いので、知られていない絶景スポットがたくさんあると思います。ぜひ、皆さんが知っている絶景スポットをキャンペーンをきっかけに教えていただけたらうれしいです。また、Instagramでは、キャンペーン時だけでなく、市内の魅力を写真等でお届けしているのでチェックしてください！(K)



広報たかしま

令和7年

12

月号

No.311

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課

TEL 0740-22-1111

滋賀県高島市新旭町北畑のろのろ番地

0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp